

放浪日記 (Pelabuhan Kkang in Malaysia through 2009)

3/02 (Mon)

マレーシア航空で KL 国際空港に着陸、まだ周りは明るかった。Malaysian Airlines MH 089
7 時間も飛行機に乗って、時差が 1 時間というのも何か変だ。空港には有川・原が迎えに来てく
れた。車で 1 時間ほどのところにある Klang の Crystal Crown Hotel に到着した。
RTGC5 台の現地生産のため、今日から 3 ヶ月間、マレーシアの Klang (KL から車で西に 1 時間) に
滞在する。私のミッションは車両の主要部品製作の工程管理と品質管理である。

3/03 (Tue)

朝一番、これから駐在することになるメイン・メンバーを製作する Vantage steel works を挨拶に訪れ
る。更にキャビンを製作する Demag の下請け業者へ、進捗状況を確認しに行った。
有川が明日からいないと言うので、急遽私の運転で Vantage を往復した(有川同乗)。いきなり
こんないい加減なことで、明日から車で通勤できるのかね。ホテルの駐車場で、盗難防止用のサイ
レンが作動した。けたたましくサイレンが鳴るので、いやいや緊張した。

3/04 (Wed)

有川がインドネシアのマンに行ったので、今朝から Vantage へ一人で通勤である。心配していたと
おり、Kesas ハイウェイの EXIT 504 を降りられず、高速道路の料金所まで行ってしまった。ゲートの入
り方が分からないので、ブースの女の人にどうしたら良いのか聞いたのだが、ブースは忙しくて対
応してくれない。途方にくれたので、原に電話をした。幸い彼が私の後ろ 5 分のところを走ってい
たので、彼の先導で料金所を通過して、彼はそのまま直進、私は次の EXIT で U ターンをして EXIT
504 に帰ってきた。原因は EXIT 504 付近で道路工事をやっていたためで、車線がいろいろ変わる
のに気を取られて EXIT に気がつかなかったからだ。いや～まいった。
道が分からないのと面倒くさいので、夕食はホテルでカップ麺を食べる。

3/05 (Thu)

ホテルに帰ってきてから外に出るのが面倒くさく、今日もカップ麺を食べる。ホテルの傍にセブン・イレブ
ンがあり便利、ここにマレー風味とタイで有名なトムヤン風味のカップ麺がある。他に野菜が入ったのもあ
るが、味はみんな同じで辛い。麺は mee という、焼き飯はナンゴレン、焼きリパはミーゴレンである。

3/06 (Fri)

有川が帰ってきたので、一緒にヘッド・ブロックを製作する Hit-tech の下請け業者へ行った。
夕食は相変わらず Giant Hyper Market の傍で食べる。Giant はスーパーとホームセンタを合わせた
ようなところで、Ringgit への換金もできる(35ringgit=1000 円)。廻りに地元の人が利用するレスト
ランや喫茶店が沢山集まっていて非常に便利だ。
漸く洗濯をするようになった。洗剤は Giant で買った Attack colour、日本のやつかな。

3/07 (Sat)

午前中 North Port の CT1 へ行った。初めて 6 段積みの RTGC に上った。高さは 30m 程あるら

しく、上まで登ると息が切れる。

今は雨季、Kesas ハイウェイを走行中夕立にあった。バケツを引っ繰り返すとは、このためにある言葉と思えるような凄さ、前が見えないので運転が恐ろしい。

晩飯は Chai と韓国の焼肉を食べた。これは美味かった。

3/08 (Sun)

Chai・有川・芹澤でマラッカへ行った。長い間ポルトガルが支配してきた街らしく、丘の上には城砦がありマラッカ海峡を睨んでいる。日本軍がシンガポールへ侵攻したときイギリス軍を排除したため、マラッカは何の抵抗も示さなかった。そのため世界大戦Ⅱ後イギリスから独立でき、日本に対する感情は好意的だという。フランスコ・サビエルのお墓があった。この街は西洋・日本・中国風の面影を残している。こういった歴史的背景からか、大したものはないのに世界遺産に登録されている。マレーは虐げられ続けてきた民族なのだ。

海南料理のチキンライスを食べた。これは有名らしい。Chai に聞いたら「料理の仕方が海南風(中国の南の島)であって、海南島の地鶏を使っているわけではない」らしい。

3/09 (Mon)

吉村さん・有川・芹澤の三人で、KL に遊びに行く。KLCC (Kuala Lumpur City Center)のツインタワーと KL タワーに登った。吉村さんの案内で屋台村、中国レストラン、日本料理店と歩いて回ったが、何処も閉まっていた。暑い KL の街中を、大汗をかいて散策でき良い思い出になった。つかれた～。最後は大きなホテルのダイニングで普通の食事をして終わった。このいい加減さは、如何にも吉村流のもてなしだ。

3/10 (Tue)

吉村さんの驕りで、Subang Jaya の日本料理店「瓢箪」へ行った。ここは本格的な日本料理店だ。近くに日本企業の工場が沢山あるため日本人が多いらしい。世界経済同時不況で日本企業が撤退すれば、どんなに美味しい料亭でも潰れてしまう。現地の人は高すぎて入れないからだ。暗い雨の中、有川の車を追いかけるのは疲れる。停車したときに「手を振ってくれ」と電話を入れて、追いかけている車が正しいことを確認した。違う車を追いかけていては大変だ。途中有川は吉村さんを見送りに空港へ、私はホテルの方向にハンドルを切って無事たどり着いた。

3/11 (Wed)

有川は日本に帰った。

夕方原から電話がきた。North Port 近くの海岸の中国レストラン「港村海鮮楼」で食事をした。マレー・テイストとのちゃんぽんだが、結構料金は高く二人で 70 ringgit。原とは仕事場が違い会うことが無いので、週一回金曜日に食事をすることにした。

3/12 (Thu)

Yong に私の PC を Vantage の LAN に繋いでもらった。速くて非常に快適。ホテルにもコネクターがあるが、これは電話線用らしく繋がらなかった。

Giant に日用品と文房具の買い物に行った(シャンプー・ティッシュ・ホチキス・パンチ etc)。文房具の包を良く見たら、カクナで書かれていた。ここは店の中でも食事ができるので便利だ。駐車場で盗難

防止のサイレンがまた鳴った。警備員が飛んで来たので直すのを手伝ってもらった。前回はキーを入れてサイレンが止まったが、今回はキーを入れるとサイレンが鳴る。どうしたら良いのかね。

3/13 (Fri)

出勤途上ハイウェイの交通渋滞に巻き込まれた。救急車が2台追い越して行った。それに加えて故障車が一台、道の真ん中に止まっていた。

朝 Vantage のキャンティーンに立ち寄って、空のボトルに中国茶を入れてもらうようにした。あの太っちょの中国人のおばちゃんはやさしい。

North Port の方角にあるレストランで原とバクテーを食べた。これは結構行ける味だ。出稼ぎに来た中国人が考案したマレー味の豚肉料理で、味付けした豚肉がスープに入っているのと、豚肉だけの2種類があるらしい。Klang が発祥の地と聞くと、マレーシアに豚肉料理があるとは奇妙だ。

3/14 (Sat)

マレーシアに来て、初めて何も無い日だ。

ダイニングで朝食を食べていたら、ホテルの玄関に紅白のテープで飾られた TOYOTA Camry が留まっていた。そのためホテルが賑わっているようだ。ダイニングの横の廊下には、昨日から幾つもテーブルが準備されていた。丁度花嫁さんが友達に付き添われて、車に乗るところだった。

Johor Bahru に住む荘秋全から電話があった。滞在中に逢う予定だ。

3/15 (Sun)

東南アジアには、香港を除くと食文化と言うものがない。中国料理もマレーシア風になると不味い。マレー料理は、脂っこい・辛い・甘ったるい。今朝ホテルのダイニングで、初めてアメリカン・テイスト(ケロッグ+牛乳)を味わった。

Giant 近くの提灯とランプで軒先が飾られた中国料理風のカフェに入った。安っぽい飾りが実に良い。料理は油が少なく、ここはこれからも使えそうだ。土砂降りの夕立が始まったので1時間ほど雨宿りをさせてもらった。なかなか雨が止まないの、事情を説明して傘を貸してもらった。傘をさして Giant に駐車している車のところまで行き、車で戻って傘を返した。

3/16 (Mon)

マレーシアの道路の作りは凄く変だ。上手く表現できないが一箇所ですべて分岐していない。

Klang から Klang 川を越えた後の道の分岐の仕方は尋常ではない、文章でどう説明して良いのか分からない。交差点で直進ができないのだ。工夫をすると直進できるのだが、初めて来たマレーシア人だって工夫ができないだろう。こんな交差点は、経験したことが無い。

3/17 (Tue)

Crystal Crown Hotel Harbour View Port Kelang は私が3ヶ月間宿泊するホテルだ。

ウェブサイトを見ると素晴らしいホテルだが、現実は大いぶ違う。部屋は暗く、本を読んだら目を悪くする。隣の宿泊者の声が筒抜けで、自分の部屋に誰がいるのかとってしまう。でも広いので特に休日は、気持ちがゆったりする。 → <http://www.crystallcrown.com.my/>

素足のサンダル履きで、ホテルの中を歩き回るのも慣れた。普通のゲストはこんな格好をする人は少ない。

3/18 (Wed)

莊秋全(Chen)は、平林寺へ座禅を組みに行ったときに会ったマレー国籍の中国人だ。一日喋っていたのだが、夕方まで日本人でないことに気がつかなかった。それだけ日本語が上手かったというわけだ。家では中国語、仕事は英語、国語はマレー語となるが、母国語が一番下手なのではないか？住まいは Johor Bahru で仕事場は Singapore、通勤に片道2時間掛かると言う。ビジネスの舞台は中近東で、イラン・イラク・トルコ・サウジ・レバノン・UAE などを飛び回っている。よくこんな危険な仕事をしていると思う。ドバイで近々デビューするブルジュ・ドバイ(819m)も見ているという(現在世界最高峰の建物は台北 101 で 508m、我がペトロナス・ツインタワーは2位で 452m)。

今日彼から「バクテーは食べたか？」という電話があった。バクテーは人気のメニューらしい。

3/19 (Thu)

ミナレットから流れるコーランの声は異国情緒を誘う。これは旅行会社がよく使う常套文句だが、ここに滞在する仏教徒には迷惑な行事だ。ここに来た頃は、毎朝6時には起こされた。「あれは目覚まし時計だ」と言っていたのだが(モスLEMには失礼)、最近目が覚めなくなってしまった。Giant で目覚まし時計を買ったが、セイコーだった。目覚まし時計くらい自国で作るべきだ。They must buy Malaysian made goods. 店員が「保障期間は6ヶ月だ」と言うから、「3ヶ月の滞在だから、そんなに長くは要らない」と答えておいた。

3/20 (Fri)

日本は春分の日で休みだと言う。現地で出勤するのは、なんか損をしたような気がする。

原と Giant へ行く方向の途中脇道に入ったところにある中国レストランへ行った。North Port の連中とよく来るらしい。Chai が頼むと美味しい料理が出てくると言う。原は、「私では、何を頼んでもいいのか分からないんですよ」と言っている。ここはまあまあの店の構えで、原が頼んでもそこそこに美味し料理が出てくる。大金の 150ringgit を奮発してしまった。原と会うのは情報交換もあるが、美味しいものにありつける可能性が高いというおこぼれもあるからだ。

3/21 (Sat)

夕方はよく雨が降る。昼間灼熱の太陽で熱せられた蒸気が上昇して上空で冷やされた後、夕方耐え切れなくなって落ちてくるのだろう。右手は土砂降りの雨左手は殆ど降っていないという、豪雨の境界を始めて見た。狭い雨の領域があっちこっち移動していくため、1時間ほどすればケロッと止んでしまうようだ。そのためなのか、この国の人は傘を持たない。濡れても良ければ傘を持たないし、濡れたくなければ傘を待てば良い。

3/22 (Sun)

原に KLCC へ車で連れて行ってもらった。帰りは一人、通勤・タトレインで帰ってきた。

ツインタワーを撮影する場所の選定に1時間ほど掛かった。兎に角ツインタワーはでか過ぎて撮影できる場所が無かった。三脚を立てて日が落ちるのを待ったが、空が明るすぎるため、なかなかツインタワーのライトが浮かび上がってこない。7時50分頃、「これしかない」というところで撮影を終了した。

3/23 (Mon)

ツイン・タワーは実に個性的だ。特に夜間の景観は他に例が無いほど神秘的だ。マハティール元首相が、国の威信を賭けて建設したのではないか（一方は日本、他方は韓国が建設。構造は同じだが、設計はどっちだ）。モスクを模した構造で、外観は手が込んでいる。夜間の照明は存在感を示すエキステリアだ。写真を撮ったのは日曜日。各事務所の灯は消えているのに、夜空に燦然と輝いて起立していた。

複雑な構造による多額の建設費・膨大な夜間照明費は、民間では賄えないだろう。

3/24 (Tue)

マレーシアは英語が通じるものと思っていたが実際はそうではない。工場の現場も街中も、これが英語かと思うほど発音は分からない。そのため会話の内容も低くなってしまふ。母国語があり加えて公用語がある国は、どこの国も語学が混乱している。（ヨーロッパは除く）日本の教育分野で「英語の能力をもっと上げなければいけない」と言っている人がいるが、上手いくかどうかは分からない。日本語の乱れが更に拡大するのは確実だ。

3/25 (Wed)

この国の道作りのおかしいところが分かった。右に曲がろうとしても、中々右に曲がれないのだ。仕方なく直進すると、Uターン専用の道がある。ここを通過して曲がれなかった交差点まで戻り、左に曲がるのだ。地図を見ると、Uターンの道があちこちにある。

roundabout と言うロータリがあちこちにある。（プライオリティは凱旋門と反対。出る車が持っている）先日新聞が「ドライブは、この roundabout をどう運転するのか教えてもらっていない」と運転の難しさを書いていた。良いところは、右に曲がれるところでは前方から来る車は赤信号で停止しているため、右折でぶつかる心配が無い点だ。その代わり交差点で止まっている時間は長くなる。

3/26 (Thu)

Giant で中がガラスでできた魔法瓶を買って使っていたが、落としてガラスを割ってしまった。今度は真空のステンレス製にしてみた。これで3つ目のポットを買ったことになる。中国人のおばちゃんに中国茶を入れてもらうポットだが、お茶を入れると口から漏れてきて持ち運びができない。もう少し増しな品質のものが無いのかね。

3/27 (Fri)

最近マレーの食事もうんざりしてきたので、数日西洋の食べ物を食している。ケンタッキー・フライドチキンが2回、ピザが1回である。昨夜PizzaHutへ入ったら、若い女の子が笑いながらメニューを持ってきてくれた。大分前に一度来たことがあるので覚えていてくれて、「また注文が分からないな」という顔をしていた。黒いスカーフを巻いた如何にもマレー風の美人、笑い顔が綺麗なウェイトレスでまた行きたくなる。

3/28 (Sat)

KL 国際空港 (KLIA) へドライブした。往復 2 時間程の道のりである。地図と乗り降りする高速道路の EXIT 番号を控えたメモを助手席に置いて出発だ。帰りに KESAS ハイウェイの EXIT 508 に乗れた

が、方向を間違えた。次の EXIT で U ターンして戻ってきた。行きは有名な場所だから目標があるが、帰りはどこへ向かって帰って良いのか分からない。帰りのドライブが難しい。

この国は緑が多く、手入れも行き届いて綺麗な国だ。KLIA は緑の森の中に浮かんでいるようだった。

3/29 (Sun)

昨日は Earth Hour だったが、KL のツイン・タワーはどうするのかと思っていた。新聞によるとツイン・タワーと KL タワーの照明が、8:30pm から1時間 light out されたという。

Malaysians join media and city landmarks for global sustainability movement.

3/30 (Mon)

マナーを論じるほど、日本人のマナーが立派には見えないが、ここで気がつくことがある。

エレベータから降りようとすると、外からどやどやと侵入してくる。自分がやられたら、気分が悪いだろうに……

3/31 (Tue)

部屋のキーは部屋番号を記録したカードになっている。部屋番号がよく消えるので、その度にフロントへ行って書き込んでもらう。よその人の部屋番号を言っても、そのとおりに書き込んでくれるだろう。セキュリティーとはほど遠いシステムである。

面白いのは、心配だからだろう、もう一枚余分にくれる。「後から返しに来る」と言ったら、「いい」と言う。ホテルを引き払う頃には、トランプができるかもしれない。

4/01 (Wed)

この国のオートバイには神経を使う。高速道路を 100km/hr 近くのスピードで走っていると、オートバイがすぐ横をすっ飛んで行く。1m 位横だからぶつかってしまいそうだ。大した命ではないと思っているかも知れないが、巻き添えを食ってしまったら、こちらの方の後味が悪い。

4/02 (Thu)

マレーシアへ来て一ヶ月が経った。記念すべき日なのだが、特別なことは無かった。分からないことばかり、右往左往しているだけの一ヶ月だった。でもこれが経験と言う大切な財産なのだ。

マレーシアはマレー・インドアン・チャイニーズと 3 つの民族から成り立っている。公的機関の上層部はマレー人しか入れない。だってマレーシアはマレー人の国だからである。民間企業はチャイニーズが経営していて、中間管理層がインドアン、労働者がマレーという構成が一般的らしい。人口割合が 20 ٪ほどのチャイニーズがこの国の経済を握っている。虐げられてきた民族は、モチベーションが無いのだ。

4/03 (Fri)

Hit-Tech と Demag と出張が続いたので疲れた。

原と晩飯を食べた。鍋を予定していたらしいが、土砂降りの夕立で取り止めになった。

鍋を食べるところは屋根が無く、雨降りでは食べられないからだろう。North Port の近くの海鮮料理店に行った。ここは前にも来たことがある店だ。

4/04 (Sat)

今日マレーシアの首相が 6 代目から 7 代目が変わった。新聞を見ても何処から何処まで名前か

分からない。ヨーロッパでは Strasbourg で NATO 60 year ANIVERSSARY が開催されている (Strasbourg は初めての海外出張先で、フランス・アルザス地方のライン川畔にあり petite Paris と呼ばれる凄く綺麗な街だ。フランスとドイツが占領を繰り返してきたので、今ではどちらが占拠しても良いように(?)、道路はフランス語とドイツ語で表示されている。建物はドイツ風である)。一方アジアでは、またまた北朝鮮がタダを捏ねている。

地元の新聞は以下を報じている。日本国民は、今頃どんな反応を示しているのだろうか？

North Korea fuelling rocket for impending launch, says report.

Japan switches to emergency control mode.

Gov Sukeshiro Terata said

“We believe a flying object from North Korea is unlikely to land in our territory”.

今日はホテルで仕事だ。Shahril と Chin にメールを打った。外は今までで一番凄い雨になっている。

4/05 (Sun)

今ロンドンで G20 が開催されている。新聞はオバマが世界の舞台に登場したと書いた。CNN はオバマが各国の首脳と会談したと報じた。日本の首相は登場しないのだが、日本はもう過去の大国なのか？

また CNN は「北朝鮮がロケットを打ち上げた。使用された部品が日本海と太平洋に落ちた。平壤は衛星になったと伝えているが、国防省ではまだ確認できていない」と言った。G20 でオバマは北朝鮮問題をロシア・中国・韓国と話し合っているらしいが、日本はつんぼ棧敷だ。次は5カ国会談になるかもしれない。

4/06 (Mon)

QC の Azmi が入院していて、あと一週間ほど掛かるという。そういえば一週間ほど顔を見ていない。鳥豚何とかという病気で、皮膚にブツブツができていくらしい(家畜から移ったようだが、高熱が出る鳥インフルエンザとは関係ない)。完全に治してから出てきてもらわないと、我々にも影響が出てくる。

4/07 (Tue)

昨夜ホテルで NOKIA を介してインターネットに繋いで PC を使っていた。NOKIA の充電が上手くいかないの、差込プラグを触っていたら、ボンという音とともにプラグも吹っ飛んでしまった。あまりの凄さにもうだめだと思ったが、PC と携帯電話は生き残っていた。壁のコンセントに差し込んでいるパーツと NOKIA の充電器は壊れてしまった。メンテナンスの人に来てもらったら、ブレーカが落ちているのが分かった。ボンと鳴ったのはブレーカが落ちた音かもしれない。

今朝充電器を買うために Giant へ行って門が開くのを待っていたら、Shahril から電話が来た。「今どこにいる？これから検査をやりたい。」と言ってきた。昨夜の顛末を説明して自己防衛を計った上で、「これから Vantage に向かう」と答えておいた。こんなところまで追いかけてくるな。

4/08 (Wed)

インスペクションのときにジャンパをどこかに忘れてきてしまったので、冷房対策ができなくなった。そのため Giant でジャンパを買った。あと一か月半持てば良いので、20ringgit と安いのにした。

こちらにも喫茶店がある。Giant の近辺にもあるし North Port へ行く方向にある街中にもある。Old Town white coffee というのがチェーン店で有名らしい。外壁が無いが、霧みたいのを下に吹き付けて店の中を冷やしているようだ。ホワイトコーヒーは凄く甘い、ヌードルが美味いと聞いた。原と食べたバクテーの店が近くにある。

4/09 (Thu)

Vantage からの帰り何かの行事なのか、2箇所で風が揚がっていた。こちらの風は西洋風で尻尾がなく、飛んでいる姿に面白みが無い。日本の風は尻尾があるので大空を舞っている感じがするが、あれは何のために着いているのだろうか？日本の三大発明の一つに鯉幟がある。西洋の幟は尻が閉じているので靡かないが、鯉幟は如何にも泳いでいるという動きだ。こういうところの日本人の感性は素晴らしい。

4/10 (Fri)

Nazrin と話をしていたときに、ロシアの何かが出てきたので北方領土の国境の話をした。Nazrin はこのとき大韓航空機爆破事件の話を持ち出してきた。「大韓航空機が爆破され、北朝鮮スパイ金賢姫が中東で逮捕された。彼女は韓国に護送され死刑を宣告されたが、韓国政府の政治的目的のため特赦された。彼女は中国語と日本語を得意として、日本人に成りすましていた。一方日本には北朝鮮による拉致問題があり、拉致された日本人が金賢姫の日本語教育をしたのではないかという疑問が生じた。後に彼女の日本語教育係りがウネと言う拉致被害者だということが判明した」という内容を話したかったのだが上手くいかなかった。死刑判決、特赦、拉致、なりすますなどなかなか出てこない。これらは The JapanTimes には良く出てくる単語だが、Abduct などすぐには口から出てこなく kidnap で誤魔化したりした。整理してもう一度話ししてみたい。この話、私が何か勘違いをしているようだ。北海道の海岸に漂着物が着岸したのは、旧リ連のパイロットがサハリン上空で越境した大韓航空を撃墜したのではなかった。

4/11 (Sat)

久しぶりに Giant の傍にある中国料理とマレー料理をごちゃ混ぜにしたレストラン “The Kopitiam” に行った。傘を貸してくれた店だ。ボーイに「覚えているか？」と聞いたら、「覚えている」と答えてくれた。「Last time はこれを頼んだのだが、今日はどうする？」と言うので、「Last time じゃない、あれは first time だ。分からんから選んでくれ」と、任せてしまった。最近は何も面白くないので、みんな任せてしまう。理由は何を食べても美味しいものは無いからだ。

4/12 (Sun)

今朝 KLCC へドライブすることを決めた。余程決意しないと行けそうに無いからだ。行きは E5 Kesas ハイウェイの EXIT 514 から E20 Kuala Lumpur - Putrajaya ハイウェイに乗り換えて、一般道 Jalan Tun Bazak を経て KLCC へ。帰りは Jalan Tun Bazak からハイウェイに乗るのが非常に難しいので、E9 に乗ってしまったときは EXIT906 を、E20 に乗ったときは EXIT209 を使って E5 に乗り換えることを頭に入れてスタートした。行きはラウンド・アバウトで間違えることはあったが、比較的楽に KLCC に着くことができた。帰りは Klang を目指したが土砂降りの雨の中、道を間違え別のハイウェイに迷

い込んでしまい、自分のいるところが分からなくなってしまった。ガソリンスタンドに寄り、地図を出して店の人に聞くと「今 Damansara にいる。Pelabuhan Klang は遠くて、この地図では道を教えられない」と言う。バイクに給油していた男が、「俺について来い。2 つ目の料金所まで先導する。そこで俺はハイウェイを降りるから、お前は真っ直ぐに行け。フェデラル・ハイウェイにぶつかるから、Shah Alam, Klang 方面へ曲がれ」と指示してくれた。小雨の中、彼のバイクを夢中で追いかけた(マレーシアのバイクは兎に角速い)。2 つ目の料金所を過ぎたところで彼のバイクが止まり、真っ直ぐ行くと大きなジェスチャで合図をしてくれた。もう会うことも無い奴だが、このマレーの男に良い人生をと思ってしまう。

4/13 (Mon)

Nazrin は先日マラッカに出張した。彼はイタリア製で 1000cc のモーターバイクを持つクールガイだ。そのバイクを飛ばしてマラッカに向かったが、途中 BMW と競争したらしい。時速 240km で彼が BMW を追い越したらしいが、あいつは気遣いだ。奥さんから「いつか死ぬ」と言われているらしい。

荘秋全に道を間違えた顛末を日本語でメールした。「今シンガポールの空港にいます。これからエジプトに行きます。帰ってくるのは次の土曜日の朝です。」と日本語の返事が帰ってきた。

4/14 (Tue)

夕食はチキンライス専門店に入った。食べながら「何時チキンライスが出てくるのだろう」と思っていたが、ハッと気がついた。チキンとライスが、別々の皿に盛られているのだ。初めっからチキンライスは出ていたのだ。土地が変わると思っても無いことが起こる。でもこれはチキンとライスだよな。やっぱりチキンライスじゃないよな。

4/15 (Wed)

今日は Vantage の帰り、久々に太陽が顔を出した。マレーの民族衣装を着た若い女のひとが、パラルをさして歩いていた。絵になる光景だった。

このホテルは 13 階建てで、私は 12 階に宿泊している。7 時 15 分頃に雲間から太陽が顔を出す。逆光の中で靄が架かっている明け方の景色は良い眺めだ。特別に綺麗な南国の朝焼けというわけではない。写真にすると綺麗になるのは、カメラマンが美しい瞬間を自分の独自の感性で切り取るからなのだ。

4/16 (Thu)

数日前から熱があると言っていた Nazrin が、chicken・pork を発症した。Azmi が 2 週間入院した後 4/13(Mon)に職場に復帰したので感染したのだろう。何時も一緒にいる Nazrin が発症したのだから、私も感染の可能性がある。マレーシア人は普通に罹る病気で、子供の頃に予防注射を打つらしい。熱が出て皮膚に水疱ができ痒いそうだ。薬屋に薬を買いに行ったら売ってもらえず、clinic で診断を受けてくれと言われた。「clinic は hospital か？」と聞くと、「診断するところだ」と返って来た。clinic の女のドクタ(?)が言っていることはよく分からないが、「注射を打った後、2・3 週間は免疫が出来ない。それで良ければ、薬を取り寄せる」と言うことらしい。「2 週間後では、私には効果が無い」と言うと、「仮に貴方が発症しても、日本に帰ってから他の人が感染する危険性が少なくなる」と答えてきた。「なるほど」と思ったので、130ringgit を払うことにした。

4/17(Fri) 2:00pm POLIKLINIK DR SITI で予防注射を打ってもらうことに決めた。

4/17 (Fri)

POLIKLINIK DR SITI へ行くと、ドクタは外出だという。暫く待たされた後、診察室に通された。

若い男のドクタで、「chicken・pork のワクチンを打つのですね。今まで罹ったことがありますか」など常套の質問の後、私は2点だけ確認したいと申し出た。

私「感染ルートは空気によるもの、ウイルスを持っている鶏や豚を食べたとき、外にありますか？」

→ドクタ「接触だけです」(この言葉を聞いて、感染はしていないと確信した)

私「どんな症状が出ますか？」

→ドクタ「初めに fever、次に vesicles、最後に itchiness」

私「空気感染は無いということだが、隣の机に座っている男が感染した。狭い部屋なのでウイルスが蔓延しているはずだが、それでも大丈夫か？」

→ドクタ「貴方はウイルスを吸っている可能性はある。免疫ができれば、それも問題はありません」

私「抗体ができるのに2・3週間かかると、昨日聞いているが」

→ドクタ「この薬は immediately に効き、In 24 hrs に免疫ができます。24 時間後に貴方が発症していなければ、その後は問題ありません」

ドクタの話は心強かった。感染はしていないと確信して、やっと重圧から開放された。

ウイルスの密度が濃くなっているときの空気感染があるとしても、熱がないので一日ぐらい抑えられるだろう。今から思えば、Nazrin は数日間 fever, fever と言っていた。彼は一週間以上出てこられないという。暫くは出て来なくて良い。日頃 彼は”You are my boss.” と言っているのだから、これは私からの命令だ。

4/18 (Sat)

今日は体調を考え、ホテル内で過ごすことにした。

日ごろ仕事をやりっぱなしにしているので、この際纏めて見ようと机に向かうことにした。

済んでしまったことを思い返すのは、あまり気が進まないことだが・・・

体に発症の兆候は無いので、chicken・pork に感染していないと考えて良さそうだ。

3人一緒に仕事をしてきたが、予防接種を受けて免疫力のある現地の男2人が感染して、免疫は何も無い私が感染しないのは、どうも話がうまく行き過ぎている。

ドクタの話が本当なら、今回のワクチンは抗体ができるまで 24 時間と非常に短い。素人判断だが、本来は予防接種が目的だろうが、特効薬としても使えるのではないか。

4/19 (Sun)

久しぶりに Jusco に行った。日本の Jusco は行ったことがないのでどんな雰囲気か分からないけれど、こちらは超豪華に見える。昨年できたばかりで、Jusco の中では世界屈指の店らしい。普段殆どがマレー人との生活なので、別世界に来たみたいだ。2 階から上は高級なテナントが入っているため、来ている人たちも私が世話になっている Giant Hyper Market のマレー人とはチョッと人種が違うという感じだ。中華料理店も、如何にも料理店という感じで高級そうに見える。

1階は食料品を売るところなので、庶民的なところがある。すし・たこ焼き・どら焼きがあった。すし弁当とたこ焼きを買ってホテルで食べたが結構いける。

4/20 (Mon)

出勤するときに2階のバルコニーを歩いていたら、1階のフロントの女の子がこちらを見上げて笑っていた。言葉があまり通じないのだが、この女の子にはいろいろ世話になってきた。番号が消えて部屋のドアが開かなくなったとき、よくカードに番号を書き込んでもらった。NOKIAの充電器が壊れたときは、一晩貸してくれた。隣にいた女の子が”It’s her pleasure.”と言っていたから、彼女の充電器なのだろう。番号が消えなくなって、ここ暫く彼女と会う機会は無かった。

階段を下りて「あなたに頼みがある」と言うと、怪訝な顔つきだったが、「新聞が止まっている。今日も来ない」と聞くと、またという感じでケラケラ笑った。隣の男の人が”This is a special delivery.”と言って、今朝の新聞を彼女に渡した。彼女が直接私に手渡してくれた。今日は一日爽やかだろう。

4/21 (Tue)

KLCC からの帰り道を間違えたときの地図の話だが、マレー人は細かい地図が読めないらしい。私は本になった地図を持っていたのだが、「大きいのは無いのか。これでは説明ができない」と言われたのを思い出して納得した。以前「なるほど the world」で、庶民が生活する周辺の穴に水を入れてサリを殺し、ヨルダン人は生活していると紹介されたことがある。私もヨルダンでは、石を退けてサリを追い出したことがある。ヨルダンにはサリがいる。これは事実である。でもヨルダン大使館はTV局に抗議したという。「番組の内容は間違っていないが、大多数のヨルダン人の生活に当てはまるわけではない」というのが、その理由である。マレーシア大使館からの抗議を避けるために、「マレー人は細かい地図は読めないと聞いたことがある。でも全ての人に言えるかどうかは分からない」と書き直しておこう。

4/22 (Wed)

テレサ・テンは真に東南アジアの歌姫だ。マニラ・台北・香港・上海で聞いた彼女の雰囲気は特別だ。「テレサ・テンは中国のスパイだ。エイズで死んだ。」こういう噂を聞くが本当かと聞いても、大概の人は否定する。彼女のイメージを壊したくないのだろう。でもクアラルンプールには、テレサ・テンが歌う雰囲気は無い。ここはもう南アジアであり、回教徒の国なのだ。

4/23 (Thu)

ラウンド・アバウト(ロータリ)は真に中世の遺物だ。先日新聞が「マレーシアのドライブは、ラウンド・アバウトの運転の仕方を教えてもらっていない」と報じていると書いたが、この道路構造は元々車社会には向いていないのだ。ラウンド・アバウトは、ロータリになった交差点で信号が無い。道が狭くロータリが小さいと、ルールを守ろうとする車は渦に巻き込まれて出られなくなる。20数年前の中国のラウンド・アバウトは国柄を表して大きくゆったりとしていたが、交通量が多くなった現在はどうか。パリ凱旋門のラウンド・アバウトは、自分で運転を試みたかった。ルーブル博物館前のコンコルド広場に車を止めると、シャンゼリゼ通りは2kmほど直線の上り坂で、凱旋門が真正面に大きく見える。エトワール広場(中心に凱旋門がある)は12本の道路が放射状に出ている。アクセル・ペダルを踏み込み、

車の渦に巻き込まれないためにシャッセ通りの右端を進んだ。エトワール広場では進入してくる車に優先権があるが、そんなことを気にしているドライバーはいない。緊張しながら渦の流れに乗り、凱旋門の後ろに廻った。ここからは自分のことだけを考えて、遮二無二エトワール広場から脱出するだけだった。

4/24 (Fri)

ホテルに帰るためケーサス・ハイウェイを運転していると、前の車がスロー・ダウンしてきた。前方を見ると先ほど Vantage から送り出した RTGC のコラムを積んだローリが 2 台、先導車ではなく後導車を従えて走っていた。ハイウェイが終わると後導車が追い越し車線に出てゆっくりと走り出した。後ろを走る車は、2 車線とも塞がれて追い越せない。よく見るとコラムの周りのキャット・ウォークが追い越し車線にはみ出しているため、追い越さないよう後導車がガードしているのだ。自分の生産している製品が、道を塞いでいるのだからしょうがない。「どうぞゆっくり走ってください」と、後ろに従うことに決め込んだ。今日 RTGC #1unit のメイン・メンバ(コラム、ガード、シルビーム)を North Port に納入した。

4/25 (Sat)

KTM コミュタで KLCC へ行ってきた。ずっと昔に来たことのある KTM クアラ・ルンプール駅を見たかったのもルールに乗りたかったからだ。クアラ・ルンプール駅はマレー風のエキゾチックな建築で印象的だったが、現在は前を高速道路が走っている。現在の KTM の中心駅はクアラ・ルンプール・セントラルに移っていて、こちらは地下に潜っている。中華街は興味のないものばかりで詰まらなかった。PRADA のバッグはもう Giant で買っている。ここで美味しい中華料理を食べようとしたが当てが外れた。セントラル・マーケットは、マレーの民族色が濃くホラーの館みたいだった。

ホテルから Port Klang (KTM の終着駅)まで「20ringgit です」とタクシーの運転手。「前は 10ringgit だった。なぜだ？」と聞くと、「あんたの英語は上手い。Japanese か？ Japanese と喋るのは大変なんだ」と言う。「日本は単一民族で、日本語しか喋る機会がなんだ。だから Japanese は英語が下手なんだ」などと話を反らされて、20ringgit 払ってしまった。

夜遅くローマのレオナルド・ダ・ビンチ国際空港に着いたことがある。白々だと分かっていたので十分警戒した。運転手の横にもう一人乗っていて、この男がフランス語でペラペラよく喋ってくる。イタリアの男はペラペラ喋るので嫌いなのだ。英語で答えても、フランス語が返ってくる。ホテルの前で料金を聞くと「〇〇リラです」と言うが、換算レートが分からない。リラは天文学的な桁になるのだ。「ドルに換算したらいくらだ」と聞くと「〇〇ドルです」と返ってきた。成田～自宅ぐらいの金額なので、リラで払ってタクシーから降りた。あとでタクシー料金を換算したら 10 万円以上だった。ドルで払っておけば良かったのだ。あれだけ警戒していたのにやられてしまった。彼らはプロである、フランス語で喋らせたなら気が散って金の計算まで頭が廻らないだろう、というのが手なのだ。フランス語はもう忘れてしまったが、数字の表現が難しいのだ。80 (quatre-vingts) は 4 (quatre) x 20 (vingt) と表現する。プロに乾杯だ。

4/26 (Sun)

Plant offering raises ire

China ‘concerned’ by Japan PM’s gift to Tokyo war shrine

BEIJING: China said yesterday it was seriously concerned that Japanese Prime Minister Taro Aso had made an offering to a controversial war shrine, and warned the move could harm bilateral ties.

The latest flare up over the Yasukuni Shrine, which honours Japanese war dead and has long plagued relations between the Asian giants, comes just ahead of Aso’s scheduled two-day visit to China next week..

“The Chinese side has already expressed to the Japanese side through diplomatic channels our serious concern and dissatisfaction,” foreign ministry spokesman Jiang Yu said.

“(We) reiterated that the question of history is highly sensitive, that any mistaken action by the Japanese side will bring a serious and negative influence to bilateral relations.”

Aso, who took office in September, has avoid visiting the Yasukuni Shrine, which honours 2.5 million Japanese war dead, including 14 top war criminals from World War II.

But the conservative premier offered the Shinto shrine a potted *sakaki* evergreen plant on Tuesday to mark the start of Japan’s three-day spring festival.

“I expressed my appreciation and respect as a Japanese national to the people who sacrificed their precious lives for the country,” Aso told reporters then.

4/27 (Mon)

「娘が初めて、人体の解剖をした」とかみさんからskype があった。献体は男の老人だという。組織を切るときに、「人間の体は丈夫に出来ている。筋肉は硬い。」と感じたらしい。気分が悪くなると拙いので、食事をせずに解剖に臨んだが何も変わりなく、解剖後は普通に食事を作って食べられたそうだ。男子学生は青くなって動揺する者もいたらしいが、女子学生は皆平気だった。それでなくては、医者にはなれない。今回は基礎解剖と呼ばれるもので、暫くこのご老人の協力を得ることになる。その後臨床解剖が予定されており、疾病のある献体で学ぶことになる。「献体はされるのですか？」と聞かれたことがある。「医者になる娘さんの親御さんなのだから当たり前なのでは」みたいな言い方だが、娘が進路を決めたのであって親には関係の無い話だ。質問されても、返事に窮する。献体を申し出る人は多く余っていると聞いてホッとするのだが、それで良いのだろうかと考えこんでしまう。

4/28 (Tue)

かみさんとは、毎晩 Skype をしてきた。携帯電話を介した画像付きの会話だ。音が間延びしたりブツブツに切れたりすることもあるが、無料でこれだけ長時間話せるのだから、Skype に感謝しなくてはならない。電話が来ないと「どうしたのかな」と心配してしまう。

休日のロビーやダイニングでは、PCに向かって話をしている人を結構見かける。

娘からメールが来た。たんとんと解剖をこなした自分が怖くなったそうだ。人体の精密さに驚き、こんなに神経や筋肉が丈夫なのかと驚嘆したらしい。人の体は想像以上に凄いと感じているようだ。感染症などあるかもしれないけれど、人の体はそう脆くはないよと力強かった。生々しくなるのでこの辺で終わりにします、と結ばれていた。

4/29 (Wed)

Nazrin が出勤してきた。久しぶりなどと言って握手は出来ない。チキン・ポークに免疫が出来ているとはいっても、直接接触は避けなければならない。彼は痒みが取れて回復したと言っているが、今日は口数が少なく普段より大人しい。一番下の娘さんが感染してしまったらしい。

Selangor 州は私が生活しているところだが、最近インフルエンザが流行って一週間ほど学校が閉鎖されたらしい。世界規模では「メキシコで豚インフルエンザが発生して、世界に広がっている。WHO はP PHASE5 を発令した。」と CNN は言っている。TCM は何も言っていない。

4/30 (Thu)

ホテルのダイニングに座るときは、何時も No.1 テーブルになってきた。今朝の食事は西洋風。ケログと牛乳・トーストとジャム・2 sunny side up eggs・デザートに果物とコーヒー。トースターをどう使うのかポークに聞いても分からなかった。教育されていない。

行きつけのレストランは、Giant 傍の雑居食堂である。Restoran “555 (妃常美食)” と Restoran “1 to eat (一起吃)” の二つだ。泰式・越式・港式・日式・伊式・葡萄牙式・西式などがある。日式鉄板焼きは、一度も開いているのを見たことが無いので潰れたのだろう。伊式はイタリア料理で、葡萄牙式はポルトガル料理だ。何でポルトガルなのかと言うと、この国は昔ポルトガルの植民地だったからだ。西式はスペインではなく西洋料理みたいだ。西式でカルボナーラを見つけたので食べてみた。これはいけそうだ、美味しい。最近泰式 FOOD のマスタと仲良くなっているので、海鮮焼飯ばかり。顔が合うとニコッと笑ってくるので、他の店に行けなくなっている。(妃常美食)(一起吃)とはどういう意味なのか、いつも気になっている。

5/01 (Fri)

Labor's Day

ホテルの横にも restoran はある。少なくとも4軒はあるのだが、一度も入ったことが無い。マレー語しか通じないらしく、マレー料理が出るらしい。マレーだから当たり前なのだが、どうも入る気にならない。帰るまでに一度は食べる必要がある。

Giant で「gargle が欲しい。口に入れてガウガウってするやつだ。」と言っても、思っていたとおりのおばちゃんには通じない。二人のおばちゃんが相談して「Listerine か」と言ってきたので、「Listerine は口臭を防ぐものだ、違う。ウイルス・インフルエンザから守る液体だ。」と答えた。暫く沈黙が続いた後「中国語を話せるか？」と切り替えしてきた。「ダメ!」。更に相談をしてくれて、この子は英語が話せると言っていて若い女の子を連れてきた。この人にも分かって貰えず、今度はインド人がやってきた。「ヴァイルスから守るガーグルだ」と説明すると「それはここでは売ってない。外の薬局で売っているよ。」と言うことだった。薬局の女店員はインド人で、「ヴァイルス、バクテリア用ですか？」と言って、ガーグルのある棚に案内してくれた。疲れる!!!

5/02 (Sat)

海外で生活するなら、きちんとした英語を話す国で無ければだめだ。英語を公用語にしている、普通の人は殆ど喋れない国が多い。そういう国で喋っていると、単語だけ並べた方が通じやすく、これでは言葉の上達は期待できない。マレーシアはそんな国だ。

「HD とは何だ」と Latif に聞いたら「そんなこと言っていない」と言う。よくよく聞いてみると彼は actually と言っているらしい。「これは縮めて発音しているのだ」と言うが、actually を縮めて、どうして HD に聞こえるのだろうか？その国の国語の発音で喋るから、分からなくなるのだろう。だから Malaysian English であり、Philippine English である。世界にはいろんな英語がある。フィリピン人に「お前は英語が分からないのか」と怒鳴られたことがあるが、「ばかやろう！ お前のは英語か」と怒鳴り返したくなる。(ミンダナオ島から出て来た男とのいざこざ)

5/03 (Sun)

休みの日にバーに座っていると、ホテルではいろいろな人たちを見ることができる。

昨晩は、2 階の中華料理レストランで中国人のパーティーがあった。40～50 名の人たちが合唱をしていたが、あれだけ多くの人合唱できる曲は何だろう。国歌だろうか。白いアラブ風のガウンとスカル・ハットの少年がホールを走り回っている。テレビ夫人は喜ぶだろうか、もうインドネシアのことは忘れてしまったか？ 黒いガウンと黒いスカーフ、更に黒い布で目だけを出している婦人たちが通って行った。この光景は何時も私を疲れさせる。「公共の場で女の人または女の人の顔が見られないと、非常に疲れる」ということを知っている人は、アラブの生活が長い人だ。女らしく着飾りたいという気持ちは、アラブの婦人にもある。鼻が高く彫りが深い美形の彼女たちは、家の中ではセクシーな服装が多いようだ。だがアラブの男たちには、異国の男たちに決して自国の美形の姿を見せないという思想があり、私は美形の姿を見る機会はなかった。客人を妻で持て成すというシルク・ロードの民とは、豪く考え方が違っている。

5/04 (Mon)

「お前は、普通の死に方はしないだろう」と昔から言われてきた。何処で死ぬか分からないという意味だろう。それでも定年まで何とか全うした。

イランのミサイルがバクダッドの国立銀行を直撃したときは、地響きで飛び起きた。空襲警報が鳴る中、編隊を組んだイラク空軍の爆撃機が飛んで行った。テロがホテル隣のセイン大統領の官邸を爆破したときは、屋上まですっ飛んで行った。イラン航空機でテヘラン空港に降りたときは、空港が爆撃されていたというから驚きだ。戦争が激化してイランに制空権が無くなったため、兼松江商の所長の家に泊めてもらうことにした。驚いたことに隣は軍隊が守る米国大使館で、夜怖くて寝られなかった。コロンボで新聞を開けたら、ほんの数日前毎朝夕通っていたカラチのバス・ターミナルが爆破され 70 人余が犠牲になった。北アフリカは湿度が高いため風土病が蔓延している。生ものはウイルスに感染するので、食べるものは火を通したシカバブーだけだった。マヤ遺跡を見るため、アフリカンウイルス・オフというスプレーを体に掛けてジャングルに入った。カトマンズでは薄暗いホテルのカウンタに小人が顔だけ出して座っていた。慣れてくると喋るようになったが、長居をしたら病気になってしまうのではと思ったことがある。

いろいろなことを経験させてもらった。死ぬことが身近になってきて、最近自分の最後は何処なのかと思うようになった。どこでも同じなのだが・・・

5/05 (Tue)

同じ太陽の下でどうしてこんなに肌の色が違うのだろう。インド人は本当に真っ黒だ。だから中国人が白く見える。マレー人はその中間で褐色だ。インドより南に位置するマレーシアの方が日差しはきつい筈で、単純に考えればマレー人の方が黒いはずだ(紫外線から皮膚を守るためにメラニンが蓄積する)。人が地球上で様々な移動を繰り返してきた経緯から、肌の色も単純には行かないのかもしれない。人類はアフリカが発生の地だというから、元々は黒人だったのだろう。アフリカから北上し、一方はヨーロッパへ他方はアジアへ流れた。ドーバー海峡から上がる水蒸気で半年は太陽が射さないヨーロッパ人は、色素が脱色し白人になった。白人は脱色した病人なのだというのが私の持論である。程よい太陽が射すアジアでは、適度に色素が取れ最も健全な黄人となった。一度脱色している最中にヨーロッパから南アジアへターしたインド人は、色素の蓄積が早くて、再び黒くなったのかもしれない。建国 200 年を経たアメリカ人は、明るい太陽の下で生活しているから赤い顔になり、赤人となっている。オーストラリア人は、南極のオゾン層の破壊が影響しているらしく皮膚癌が多いらしい。黄人がオーストラリア人なら、癌の発生はもっと少なかったのかもしれない。

5/06 (Wed)

今朝交差点で信号が消えていた。この信号が消えているのは二度目である。直交する車が途切れるのを待っていると、後ろからどんどん追い越される。途切れるのを待つのではなく、自分で途切れさせるのがこの国のやり方だ。そうでないとこの無秩序から脱出できない。仕事を終えて帰るときも、この交差点は信号が点いていなかった。そこで交差点の真ん中まで出て直交する車の流れを止めておいてから、次の手を考えることにした。

5/07 (Thu)

有川が 5/01(Fri)から Klang に来ていたが、今日帰国した。3人で食事をした後、空港まで見送りに行った。5/04(Mon)原が、North Port で#1RTGC の立ち上げをやった。新しい RTGC がこのポートにお披露目されたわけだ。本プロジェクトのハイライトである。#2RTGC の立ち上げを待つとローリーを搭載した後、エンジンをスタートさせて RTGC を稼働させる予定だ。私が Klang に滞在している間に、RTGC の実作業を見ておきたい。全部で 5 台を North Port に納入する。

5/08 (Fri)

Vantage の仕事が終わってから North Port へ行った。#1 ユニットはエンジン室・電気室・ラダーが取り付け、ローリー搭載を待つだけだ。#2 ユニットは面組みが始まっている。今日は忙しくて昼飯を食べるのを忘れていたので腹が減った。ここのキャンティーンはマレーシア・ライクで、Vantage のチャイニーズ・ライクとはちょっと味が違う。暗くなってから North Port の CT1 ゲートを出た。高架橋を渡るところを、間違えて Shah Alam 方面に入ってしまった。例によって中央分離帯がずっと続くため U ターンができない。そのうち料金所を通過する羽目になってしまった。理解してもらえないかもしれないが、高速道路料金を払ったのだが、高速道路に入ったのかあるいは出たのか分からないのだ。中央分離帯が無くなったので、車を停めて原に電話した。「CT1 ゲートを出て、Shah Alam 方面に入って

しまった。料金所で0.5ringgitを払った。」「0.5ringgitを払ったなら、そこは2車線になっているでしょう。U ターンしてください。」「分かった。高架橋が見えたら、左に曲がるのか」「その辺に North Port の看板があります。何かあったらまた電話ください」と電話は切れてしまった。また間違えたのかというような呆れた雰囲気だった。高架橋の手前で車を停めて、Pelabuhan Klang の道路標識を確認して左旋回した。この国の道路の作り方はやっぱりおかしい。昼間 Charleston に「この国の道路の構造は変だ。交差点で右に曲がれないので、U ターン箇所がある。」と話をしたばかりだ。

5/09 (Sat)

今日はインド人のお祭りで、休日らしい。

Azhar の家族と Morib 海岸へドライブした。途中奥さんの実家に寄って、掘っ立て小屋のベッドで裸のまま昼寝をしていたアングル(Azhar の奥さんからみておじさん)と話をした。土砂降りの雨が降り出したので会話が長くなった。イスラム教の話が中心だ。彼は「イスラム教では、モハメッドは伝道者で別に God がいる。」と説明した。「God とは誰だ」と質問したら、「今雨がこの茎を伝って流れているだろう。これが God の willing だ。」という。「オスマン・トルコは長い間アラブ民族を支配してきた。その中心地がコンスタンチノープルだ(今のイスタンブール)。あそこはキリスト教とイスラム教が混ざっていて良いところだ。行ったことがあるか?」と聞いてきた。「何回か行ったがエキゾチックな街だ。ブルー・モスクはいい。外観はモスクだが内に描かれている絵はフレスコ画だ」と言ったら、「違う違う、それはアヤソフィアだ」と訂正されてしまった。グラナダのアルハンブラ宮殿、旧ソ連の回教国アゼルバイジャン・ウズベキスタン・トルクメニスタン、新疆ウイグル自治区のウルムチ・トルファンなど、遠い世界の話だった。「トルコは、ロシアによってトルクメニスタンと2分割され虐げられてきた。アジアの小国日本がヨーロッパの大国ロシアに日露戦争で勝ったとき、トルコは狂喜した。以来トルコは日本を尊敬していることを知っているか?」と聞いたなら、そんなローカルなことは「知らない」ということだった。「マレーとインデアンが結婚するとき、宗教はどういうことになる?」と質問したら「インデアンがモスlemにならなければならない。」という回答だ。改宗しなければ、結婚できないと言っていた。マレー人と現実的な中国人の結婚など、在り得ないのだろう。お祈りのとき、私はモスクに入れないので外で待った。その後 Morib へ出発だ。

5/10 (Sun)

今朝夕日が綺麗だというキャッチフレーズの蟹島へ行って来た。Pelabuhan Klang からフェリーポートで45分ほどのところにある。中国人の漁村で湿地帯の上に街が作られている。2~3m 幅の防波堤のようなものが道路になっていて、その両側に店や民家が立っているので、自転車しか乗り物は無いのではないかと感じてしまう。見るところもすることも何も無いので、乗ってきたフェリーポートで帰ってきた。島の若者が「原宿」「大阪」と書いたTシャツを着ていた。

Pelabuhan Klang に着くと、タクシー・ドライブと目が合った。「Crystal Crown だろう。あんた知っているよ」と言うので、調子の良い男だと思いながら「いくらだ」と聞いたら、10ringgit と安かった。車が走り出すと「あんた、このタクシーに乗ったよ。」と言って、昔日本人から貰ったという「博多」と書いたキーホルダーを見せてくれた。確かにこのキーホルダーは見せて貰った。今朝のタクシー・ドライブは15ringgit だったから、このドライブは良心的だ。バンコクの国際空港タクシーはドライブの不正を防止

するために、目的地に着いたら無事着きましたと客がサインするシステムだった(今はどうしているか知らないが…)。空港でタクシーに乗ったら「貴方を覚えている」とドライバーが言う。その時行ったホテルの名前も出てきたように思う。空港から直接マッサージ・パーラーに連れ込まれた人を知っているので、警戒モードに入った。「いつ頃だ」「今年の〇〇頃」「その頃、来ていたような気がするな」と思い出しながら、「ノートを見せてくれ」と頼んだ。ノートを捲ってその頃のページまで来ると、確かに私はサインをしていた。私はバンコックで著名な人じゃないかと思ったものだ。ここ Klang でも有名人だ。

5/11 (Mon)

Taliban fighters withdraw from Pakistan district

Move comes as govt deploys extra forces

PESHAWAR: Taliban fighters yesterday began evacuating a Pakistan district where the government deployed extra forces under US pressure to stop hardliners advancing closer to the capital, officials said.

Taliban militants armed with Kalashnikovs had patrolled for three days in the district of Buner, 100km from Islamabad, before the fighters and a local government official confirmed they had begun to leave.

“They are now withdrawing from Buner,” announced North West Frontier Province (NWFP) information minister Mian Iftikhar Hussain after officials convened crisis talks to decide how to counter the advancing Islamist menace.

Muslim Khan, the main Taliban spokesman in the area, confirmed the pullout, saying: “The decision has been taken to withdraw from Buner.”

Local residents said that they had seen Taliban fighters leaving some areas, while television footage showed armed militants in black turbans and traditional white shalwar kameez outfits boarding mini-buses and trucks.

5/12 (Tue)

大陸で発生した雲が偏西風に乗って移動して来るので、日本の大まかな天気は、「西の空が夕焼けなら、明日は晴れ」である。天気予報も簡単だ。最近東京のようなコンクリート・ジャングルでは、局所的な集中豪雨が発生するのを見かけることがあるが… マレーシアでは日中水蒸気が上昇して、その真上に積乱雲を作る。この雲が狭い範囲を移動するだけなので、夕立は時間も短く範囲も狭い。これでは天気予報など立てられないのではないかと思うが、地元の TV を見たことが無いので見方が正しいかどうかは分からない。ネパールの雲は、山に沿って上昇するだけだ。「この国の雲は、水平に移動しない」と言ったら、地元の人は笑っていた。余談だがネパールの人はエベレストを知らない。廻りに高い山が聳えているため、全国でも2箇所ほどでしか見られない。私は幸運にも車でインドへ南下しているときに、その地点を通過した。

5/13 (Wed)

ホテルのダイニングから外を見ると、この国の木は天辺が平らに広がっている。道路の両脇が並木

になっていると、太陽の光が遮られて道を歩くことが出来る。たぶん植物は知恵を働かせているのだと思う。上の方の枝が横に広がり、葉っぱは幅を広げ、幹に強い太陽光線が当たらないように工夫をしているのではないか。いやもっと思慮が深く、下を通る動物を直射日光から守ってあげようという慈悲が働いているのかもしれない。

5/14 (Thu)

3日に一度は手洗いの洗濯をしてきた。週末は毎日だったり、一日おきだったりしたので結構な仕事量になっていた。部屋はクーラーを殆ど使わなかったため、クローゼットの中の洗濯物はなかなか乾かなかった。そのため一番乾いているものから、順番に着ていくことにした。乾いているものを着られるのは、やっぱり気持ちが良いものだ。かみさんが洗濯をしてアイロンを当てるのが当たり前と思っているが、感謝しなければならない。「君の瞳に乾杯！」

5/15 (Fri)

「君の瞳に乾杯！ ”Here’s looking at you, kid”」は、ハリウッド映画「カサブランカ」でリックがイルザに言う台詞である。アルジェで生活をしているとき、どうしてもアラブから逃げ出したいときがあった。ヨーロッパの航空会社と船会社は自国民を優先するため、アジア人は直には切符が手に入らない。色々手を尽くしてみても、セネガルのダカールかモロッコ側にあるスペイン領タンジールのどっちかに出ることを決めた。当時はパリ・アルジェ・ダカール・ラーであり、ダカール・ラーの出走車は1/3にアルジェを通過する。私はこのコースの2000kmを走っていて、そんなこともあってアフリカ西海岸のダカールには一度行ってみたかったのだ。結局危険を回避するため地中海側を選んだ。エール・アルジェリでカサブランカに飛び、バスでタンジールに向かった。歩いて国境のゲートをくぐり、白人を見たときはホッとした。タクシーをチャーターしてジブラルタル海峡を案内してもらった。旧ソ連の潜水艦が黒海からボスポラス海峡(イスタンブール)を潜って地中海に南下してくるので、こんな小さな街でも重要な軍事拠点であり、自由主義諸国の領事館が集まっているという。ヘラクレスが持ち上げたという巨石もあった。「何でもここへ来た」と聞くので、カサブランカに来たかったからだと答えた。映画「カサブランカ」を知らないというので、「パリ陥落の前夜、男と女が一緒にカサブランカに逃げようと約束した。翌朝女は駅に現れなかった。その後男はカサブランカのカスバで酒場を開いたが、身を持ち崩した。これは偶然なのだが、昔の恋人がナチのレジスタントであるご主人と一緒に、彼の経営する酒場に現れた」と説明した。アラブ系のタクシー・ドライバは「その話は嘘だ」と行き成り言ったので、私は驚いた。彼は「有史以来、カスバの中に酒場なんかは無いのだ」と続けた。彼の言うのが事実なら、私が好きなイングリッド・バーグマンが主演するこの映画は、土台から崩れてしまうのだ。ハリウッドは時代考証を充分せずクラインインしてしまったのか、それとも承知の上でやったのか？

5/16 (Sat)

「ここは地の果てアルジェリア。どうせカスバの夜に咲く酒場の女の・・・」という歌がある。だがアルジェリアは決して地の果てではない。北アフリカを旅したこともない作詞家がこの歌を作ったのだ。北アフリカには、エジプト文明が栄え、アルジェ近郊にはクレオパトラの妹のピラミッドもある。チュニジア・アルジェリア・モロッコはローマ帝国の国家としても栄え、多くのローマ遺跡が残されている。この歌にでてくるチュニジアの首都チュニスには、ローマ帝国と敵対したハンニバルのカルタゴがある街だ。カルタゴは数百里四方の小さ

な都市国家だが、地中海に覇を称えた。地中海に面したこの遺跡に立ったとき、ローマは対岸じゃないかと思ったものだ。今のアルジェリアはと言うと、アルジェはフランスの文化がまだ色濃く残り、地中海風の白い壁と青い窓枠とでできた街並みは本当のかサ・ブランカ(白い家というスペイン語)である。フェリー・ポートの上から眺める風景は南フランスの雰囲気であり、フランスの名優ジャン・ギャバンが似合う街だ。ノーベル賞作家のカフカ、テザイのイブ・サンローランやサッカー・フランス代表のジタンはアルジェリア出身である。どうしてここが地の果てなのか？一方現在この地に住むベドウィンたちは、「Japon は Chino のどの辺なのか？」と聞いてくる。日本は中国の属国か、地方都市ぐらいに思っているようだ。彼らから見れば、日本は極東(Far East)なのだ。東に極まっているなんて、もう地球から落ちこちてしまいそうな端っこなのだ。

みんな、そんなものなのだ。あっちこっちがいい加減なまま、時代が動いているのだ。

5/17 (Sun)

世界の現実には厳しい。一旗上げようとする日本の若者が、ヨーロッパにやって来る。挫折し持参した金が尽きたが、由あって日本に帰れない者が、北アフリカに縋りつきながら生活をしている。大きなプロジェクトに参加して、外国語など分かるはずが無い中年の男達が金のために郊外で飯場生活を続けている。一人では町にも出られず、これはもう監禁生活と同じだ。コバルト色に輝く地中海の一人旅を満喫している日本の若い女性が、プティックの試着室から忽然と姿を消し、北アフリカに売り飛ばされてしまう。荒んだ生活から生還した者は幸運だ。凄惨な戦いがあったらうし、運も良かったのだろう。でも生還できなかったものは、ノローセや発狂で廃人となり、それでもこの土地で生活をしている。切腹をした者もいた。カサブで体を売っている人もいる。この荒んだ生活の話は、北アフリカで生活しているときに「あそこに日本人が住んでいる。いい生活はしていないよ」と、その土地の人達から実際に聞いた話である。

5/18 (Mon)

On high alert

Second student on same flight infected with H1N1 virus

PUTRAJAYA: Malaysia has stepped up efforts to control the spread of the influenza A (H1N1) even as health officials are racing to track down passengers of Malaysia Airlines Flight MH091 from Newark, New Jersey, after two of its passengers have been confirmed to be down with the virus.

A second student, a 21-year-old woman who was with three friends including the first patient on the flight, was confirmed to have contracted the virus yesterday. She was warded at the Penang Hospital.

Health Ministry deputy health director Datuk Dr Ramlee Rahmat said health departments nationwide have been given a list of the passengers' details so that they could be contacted.

5/19 (Tue)

ふらっと吉村さんがやって来た。Jakarta からの帰りに、Kuala Lumpur に立ち寄って日本に帰るのが定番になっているようだ。若い頃は海外出張費などという名目で会社の1・2を争うほどの

浪費をし、世界のあちこちを旅させてもらった仲だ。私はとっくにカキ^{カキ}になっているが、彼はまだヤクザな世界にいる。スーツ姿に踵を踏み潰したスックを履いて、KLの街中で肩を揺すりながら歩いてそれが似合う人は少ない。深作欣二作品のクアラ・ルン^{クアラ・ルン}フル編だ。日本食を食べようと、Subang Jayaの「瓢箪」へ行った。何ヶ月ぶりかで料理を食べた気がする。肉じゃがは無かったが、味噌汁・お茶漬は美味かった。

5/20 (Wed)

マレーシアには3つの宗教がある。イスラム教・ヒンズー教・仏教である。中国人は現実的だから無宗教かもしれないが、それでも中国風のお寺を沢山見かける。イスラム教徒は敬謙だから一日に5回お祈りをする。金曜の午後からは、お祈りのため職場からいなくなる。更にファナティックになると、アルカイダやタリバンという集団になる。これだけ信心しているのだから、信心していない中国人や日本人より良い人生を送れるはずだが、なかなかそうは見えないのである。(彼らには良い人生なのかもしれないが・・・他人の人生観でとやかく言われるのは大きなお世話か?) それでは、宗教とは一体何なのか?

Charleston(チャイニーズでクリスチャン)に聞いてみた。「モス^{ムス}レムは金曜日の午後職場を抜け出してモスクでお祈りをするが、その間給料は支払われる。チャイニーズやインディアンは働いているのだから、文句は出ないのか?」。Charlestonは「マレーシアは回教徒の国だ。彼らを respect している」と話してくれた。拍手をしまいそうなの立派な姿勢だ。彼はチャイニーズだが、中国語を読めず中国の歴史も文化も興味がない。モス^{ムス}レムでもヒンズーでもない。マレー語よりも英語の方が楽だと言う。この国で生きていくのは大変ではないか。

5/21 (Thu)

Assalamualaikum (私はこの言葉が好きだ。アラブ語でおはようと挨拶するときに使うが、peace upon youを意味する。通常はアサラムリコンと発音し、ここでは Shahril が使っている。)マレーシアではモス^{ムス}レムだけの挨拶言葉で、モス^{ムス}レム以外の人からアサラムリコンと挨拶されても、答えないのが慣わしだと聞いた。中近東や北アフリカでは、マントを着てターバンを巻いた男たちと、ゆっくりと「アサラム アリクン」と挨拶しながら握手を交わすのが格好良いのだ。

ホテルの道路を挟んで向こう側に集会場がある。コーランの声明が流れてくるのは、ここからである。コーランは必ずアラブ語で声明されるので、モス^{ムス}レムである Nazrin も意味が分からないと言う(何を言っているのか分からないのは、お経も同じだ)。「ホテルには聖書はあるがコーランは無い。何故か?」と思い切って聞いてみた。「一つは、コーランを他の言語に翻訳すると間違っ^てて解釈される可能性がある、基本的には翻訳を認めていない。だから英語のコーランが無い^{ため}。もう一つは、コーランがいい加減に扱われるのを防ぐため。各家庭にコーランはあるが、神聖な場所に置かれている」と Nazrin は言った。

状況は日本の仏教とよく似ていると思った。普通の人^はあまり関心^が無いが、敬虔なモス^{ムス}レムだけが各国語で書かれた解説書^を読んで^{いる}のではないかと感じた。

5/22 (Fri)

この国の電車は普通列車しかなく、各駅に停車する電車では Johor Bahru まで時間がかかり過ぎるため、飛行機か高速バスにしろと言われた。荘秋全に頼んで、Klang 発 Johor Bahru 行き的高速バスの便を調べてもらった。以前から Bangkok 発 Singapore 行きのアジア急行(これは London 発 Istanbul 行きのオリエント急行に対抗したもの)に乗りたかったのだが、そんなものは無いと言われがっかりしてしまった。(元々無かったのか、無くなってしまったのか分からないが…)

乗車バス・ターミナル Klang terminal in Selangor

Transnational Bus (33 人乗り) Causeway Link Express (26 人乗り)

時刻: 9:30am, 2:30pm, 11:00pm 時刻: 10:30am, 5:30pm, 12:30am

料金: 34.10 RM 料金: 33.80 RM

降車バス・ターミナル Larkin terminal in Johor Bahru

KL からは高速バスが沢山出るが、Klang から直接 Johor Bahru へ向かうバスは少ないという。片道 320km で 5 時間、明日はマレー半島の西海岸をバスで南下の旅だ。

5/23 (Sat)

バスでエクスプレス E2 を南下した。何百kmも椰子のプランテーションが続く風景は壮観だ。Larkin バス・ターミナルは 66 プラットフォームもある巨大ターミナルで、人でごった返していた。「25 番プラットフォームに着いた」と荘秋全に電話をすると、「そちらに向かいます」と返事があった。雑踏の向こうから笑いながら歩いてくる男がいる。手を振ると、向こうも手を上げた。あいつは覚えていたのだと感激した。15 年ぶりの再会だが、また逢うとは思ってもいなかった。彼の車で、まず Mosque と Sultan Istana へ連れて行ってもらった。この地は私の新婚旅行先でもう記憶が朧だが、Mosque の庭で新鮮だった我が女房の写真を撮った記憶がある。彼の家は典型的なマレーシアの住宅で、雑談の後奥さんと 20 ヶ月の子供と一緒に夕方の散歩をした。海峡に面した中華レストラン「詩里邦海鮮村」で、対岸の Singapore の明かりを見ながら 15 年間の話をした。昨日テヘランから帰ってきたばかりで、私の好きなピスタ好と乾燥させたナツメヤシをお土産にくれた。どちらもテヘランが好きなのだ。今のテヘランは、女の人は会社勤めをしていて顔を出して歩いている、報道されている社会現象とは全く違うという。彼のパスポートはイランのビザが押されているため、合衆国には行けないという。宿泊は海峡を跨ぐ古い大橋を前にした Grand BlueWave Hotel だ。

5/24 (Sun)

彼はマレーシアの Johor Bahru に住まいして、シンガポールのオフィスに毎日通勤している。タクシー(家～マレーシア immigration)→バス(マレーシア側～シンガポール側 immigration)→地下鉄(シンガポール immigration～最寄り駅)→バス(最寄り駅～会社)と片道2時間掛けているという。同じ道を辿ってシンガポールへ入り、オーチャード通りの旧マンダリン・ホテルの前で降ろしてもらった。この道もこのホテルも懐かしく思い出した。「シンガポールに来たけどどうします?」と言うので、「帰ろう。シンガポールにいても仕方が無い」と答えると、「エー」と秋全はビックリしていた。「それじゃ、秋全の事務所へ行こう」

とタクシーで乗り付けた。日曜日なのでドアは開かなかったが、彼の仕事場を見ることができた。彼は営業をやっていて、テリトリーは最も危険な中近東である。「今まで人が行きたがらない地域を開拓してきた。今中東はホットだから、ここは誰にも渡さない」と言う。魅力があると思われるシンガポールは人に譲ったというから頼もしい。

Larkin バス・ターミナルに再び戻ってきて、シンガポール発クアラルンプール行きの国際バスを待った。定刻を過ぎててもバスは来ない。炎天下のバス停では、何もしていないのに汗が噴出して来る。「逢えなくなるかもしれないので、早く日本に来てくれ」「そんなことはないですよ。行くときは連絡します」と挨拶を交わしてバスに乗りこんだ。

5/25 (Mon)

Malaysia 滞在ビザの期限は 5/30(Sat)だったが、Singapore へ出国し Malaysia にまた帰ってきたため、90 日延長された。マレーシア出国は 6/7(Sun)に決めた。

アジア急行はやっぱりあった。秋全によるとこれは観光列車らしい。寄り道をしながら、1 週間ほど掛けてバンコックからシンガポールへ南下していると言う。そのため普通の人は使わないので、知らないのだ。

5/26 (Tue)

Terima Kasih はマレー語でありがとうである。terima=receive, kasih=love

マレー語とインドネシア語は殆ど同じだそう。海を隔てているのになぜだろう。

Latif によると、国王は両方の領土を統治していたそうである。もともとはひとつの国だったのかもしれない。後日聞いた話だが、マレー半島の原住民はオーストラリアと同じアボリジニー人だ。そこへインドネシア人が流れてきたというのが正しい歴史らしい。インドネシア人はうんざりするほど美人が少ないが、土地が変わって顔かたちも変わったようだ。

Vantage のキャンティーンで、インディアンが「中国報」という漢字の新聞を読んでいる。凄く奇妙な光景だ。日常生活でマレー語・ヒンディー語・中国語・英語と使い分けることになるが、そんなに万能な分けがないよな。どの言語もみんな、半端になってしまうのではないだろうか。

5/27 (Wed)

ホテルにあるエレベーターの M ボタンは中華料理のレストランと駐車場に通じているフロアだ。M フロアでエレベーターのドアが開いたので出ようとしたら、エレベーターを待っていた人と目が合った。綺麗な人だった。

5/28 (Thu)

Johor Bahru へ行く前日、荘秋全に日本の食べ物を持って行こうと思い立って Jusco へ行ってみた。まず店内を探して見たが、日本の店が営業していそうにも無かった。分からなければ聞けば良いのだ。「日本の食べ物をみやげとしてマレー人の友達に持って行きたい。日本のブランドを売っている店は無いか？」と尋ねた。店の女の二人が相談したが纏まらないようだが、「ケーキが良いのではないですか？デリカテッセンの向こう側です。」と返ってきた。320km も離れたところへ持って行く程のものじゃないよな。日本料理屋があったので、同じ事を聞いてみた。「お土産の相手は男の人ですか？いくつぐらいの人ですか？ちょっとみんなと相談してきます」と日本語を交えて言うので、これは感触が良いと思った。別の人がきて「ホールペンが良いのじゃないです

か」と返事をされて、ひっくり返りそうになった。結局、即席みそ汁白みそ・ニコニコのり・高麗人参茶がお土産になった。

日本のエスカレーターは、上りと下りはそれぞれが別々の場所にある。上がるときは、1階から2階に、そしてそのまま3階へも行ける構造だ。このエスカレーターは違う。2機並んでいて一方は上りで、他方は下りになっている。もう一つ上の階に上がろうとすると別の場所へ移動する必要がある。この国では、1階から3階に行く人はいないのかもしれないが… う～ん、もう一つ頭の構造が良く分からない。

5/29 (Fri)

Thai Food の sea food fried rice が私の定番だ。中国茶を付けても150円程で食べられる。マレーシアの人でもここで毎日食べる人は少ないだろうと言われる程、ここは安過ぎる食堂なのだ。だが私はここへ3ヶ月間通い続けた。この若いマスターと気が合うからだろうが、彼が始めて私の前に座って話しかけてきた。

「何時まで居るのだ？仕事で来たのか？」「仕事だ。あと一週間で帰る」「どこへ帰る？」「日本だ」「私はミャンマーから来た」「ミャンマー？ 独り者か？ 幾つだ？」「29歳、ここに来て7年になる。ミャンマーの家に仕送りをしている」「どこに住んでいる？」「この2階だ」「君には世話になった、ありがとう」「もう来ないのか？」「マレーシアにはもう来ない。ここにはあと一週間世話になる」

名前を名乗ることも無い、名前を聞くこともない。人生のホンの一瞬すれ違っただけの男である。

5/30 (Sat)

Air Asia AK5362でPenang島へ行った。学校が休みで、荘秋全一家が、ここに里帰りしているからだ。まず Evergreen Laurel Hotel にチェックインして、荷物を軽くした。夕陽の写真を撮る場所はどこが良いか、秋全に電話をした。Pantai Jerejak か fort cornwallif が良いというので、タクシーに乗って中華街で降ろしてもらい、1時間ほど歩いて fort cornwallif に行った。この砦の中を散策していると、秋全から電話があつて場所を間違えたという。タクシーに乗り込み「行く場所が分からない。今から友人に電話するので、行き先を聞いてくれ」とタクシー運転手に頼んだ。「ムチャラ・ホテルは閉鎖されている」「夕陽を見るだけなら問題ない」「そっちで待っているのか」というような会話の後、タクシーは町を抜けて Penang 島の北海岸を走り続けた。タクシーが停まったところに、荘秋全の家族が待っていた。インドネシアの地震で津波が襲い世界に報道された Pantai Aceh はこの先にある。夕陽が落ちる頃、奥さんの親戚が経営する海沿いのレストランで食事をすることにした。

5/31 (Sun)

昨日はいろいろあつたので、今日はホテルでゆっくりすることにした。昼ごろインディアン・テンプルに行ってみた。Penang はチャイニーズとインディアンが多く、二つの文化が交じり合って世界遺産に指定された。このお寺もその一つらしいが、普通の町並みにある小さなお寺なのでこれが世界遺産なのという感じだ。

Air Asia の地上職員が、乗客に英語で手続きをしていた。私のときに突然マレー語に変えてきた。日本国のパスポートを見せているじゃないかと合図をしても、マレー語をしゃべっている。マレーに馴染み過ぎてしまったのか…

6/01 (Mon)

#1RTGC のエンジンが掛かった。これで取り敢えずは、車両とトリーの走行は出来る。後は電気と制御の調整が1週間ほどあり、その後実働に供される。私の役目は終わった。

6/02 (Tue)

Sad and saggy

One of the biggest fears faced by women is sagging breasts, particularly in our modern culture where women's breasts have become so revered as symbols of sexuality and in our being "brainwashed" by fashion magazines and celebrity-watching into believing that the image of perky breasts and a deep cleavage are the ideal.

Just look at the lengths that women will go to, just to make their breasts bigger, rounder, perkier or even smaller!

Sagging of breasts is a natural, inevitable process. Your breasts are not immune to the pull of gravity, no matter how hard you wish it to be.

So what is the purpose of this article? It's aimed at helping you understand why breasts sag, why some women's breasts sag, more than others and what you can do about it.

As the breast itself is not made of muscle, there is no way that one can keep it "toned", either by wearing bras or through exercise.

In fact, there is some research to show that breasts in bras actually sag more when the bra is taken off, because the ligaments that support the breasts atrophy (become thinner and weaker) as they are not being utilized to support the weight of the breast.

Should you take this to mean that bras are bad? Of course not. In our culture, going bra-less in public is seen as taboo and few women would be comfortable with such a practice. However, perhaps you could consider not wearing a bra while in the privacy of your own home, or to bed at night.

Some believe that eating nutritious foods can help improve the elasticity of the skin, and hence prevent droopiness. While this is not proven, eating a nutritious, well-balanced diet with lots of vitamins and minerals will give you many other benefits, both on and below the surface of the skin!

At the end of the day, you'll just have to accept your breast, saggy as they are! Do not obsess about how unattractive they look – you may be surprised to find that men actually do not find it a turn-off!

If your partner does feel that way, try to educate him. He should love you for your whole self, not just some of your physical attributes, which are subject to the pressure of time and age. Furthermore, there are many other aspects to your physique and personality that may be far more attractive.

We can't all be young, attractive teenagers. But we can appreciate and enjoy what we have,

and learn to make the best of it.

この記事は、今の私の心境だ。

6/03 (Wed)

Joe, Lim, Chai, Dickson 等と食事をした。Joe の名前は聞いていたが、会うのは初めてだ。情報は抜かりなく収集し喋り方も丁寧で紳士だ(ここではもう一人若い Max が紳士の雰囲気を持っている)。時々日本語が出てくるので、「どこで勉強されたのですか？」と聞くと、「アメリカです」ということだった。彼女が日本人だったらしい。「芹澤さんを今まで放ったらかしにしているし申し訳ないことをした。もっと早く招待するべきだった。今度来たときは、ちゃんとしますから…」と低姿勢だった。私は Joe さんの ITPortLink とは仕事での付き合いはないので、戸惑ってしまった。

ここの料理は、マレーシアへ来て一番美味しかった。

6/04 (Thu)

今日のはかみさんの誕生日。

Vantage での仕事が終わった。Vantage は言葉が通じないので、色々不自由があったし思うように行かなかった。最大の原因は、Shahril と Azmi の発音が難解で理解できなかったことだ。もう少し好い部材を作りたかったが、改善をするような時間も無かった。そんなこんなで、今回の project は消化不良のままだ。

6/05 (Fri)

North Port を訪問した。Vantage で製作した主要部材を North Port に供給し、ここで組み立て車両にしてきた。この港で働く RTGC を見る機会は、もうないだろう。

6/06 (Sat)

前日から Chai の車で、彼の実家がある Ipoh へ行った。車で 2 時間。ここは料理の美味しいところだと聞いた。Chai の家は、Ipoh のはずれで大分田舎だ。こんなところに泊まるのと思ったが、最近近くに大学が出来て、街の一角が整備され綺麗なところがあった。だがこのドライブでは、色々なハプニングがあり疲れた。

・ 会食

Hen さんと一緒に食事をすると Chai が突然ホテルに迎えに来た。中華料理店に入ると 10 人位が集まっていた。鱻鱻のスープから始まる贅沢な食事だった。

・ ホテルのリコンファーム

小綺麗な町並みの中に、予約したホテルはあった。Chai がホテルから出てきて、「芹澤さん、悪い。このホテルは泊まれない」と言ってきた。このホテルは予約のリコンファームが要るらしいが、Chai がしなかったのだ。飛行機の予約システムと同じだが、繁盛しているから強気で行けるのだろう。仕方がないので旧市街の安ホテルに投宿した。一晚 40ringgit と超格安なので、Crystal Crown Hotel が豪華なホテルに感じた。

・ キャメロン・ハイランド

6歳から16歳のChaiの妹3人と弟1人が、キャロン・ハイランド[®]に着いてきた。車の中がかしましい。キャロン・ハイランド[®]とバンティン・ハイランド[®]はマレーシアを代表する観光地らしい。登るにしたがって気温が下がってきて、高原では25°C前後だった。日本の気候とほぼ同じである。マレーシアの人たちには普段とは違う景色なのだろうが、日本人たちには見慣れた風景だ。日本人には下界のホーム・ツリーの方が、灼熱の南国を感じるのだ。Chaiがboreか(退屈か)と聞いてきたが答えられない(本当はboreなのだ)。キャロン・ハイランド[®]の入り口は、桂林を思わせる石灰石の山が切り立っていたのだがその後が続かなかった。

- ・ カー・チェイス

Chaiが運転しているときに携帯電話で話をしていて、前の車が止まり急ブレーキを掛けて追突を免れたが、後ろの車に追突された。話し合うために横にあった広場に車を入れたときに、追突した車が逃走したのに気がついた。Chaiの方を見ると、彼は車に跳び乗るところだった。追跡を開始したときは周りの車は事情を知っているため避けてくれたが、暫くすれば事情を知らない車ばかりだ。Chaiは一般道を時速130kmで路肩や対向車線を走って追跡し、赤信号機をすり抜けて行く。その間Chaiは片手で電話をしている。緊急事態のときに出てくるのは、一番喋りやすい言葉だ。北京語を喋っているらしいが、ナンバー・プレートの番号を言っているので警察署に電話しているのだ。「バカヤロー、こんな危険なときに電話をするな。俺はここで死ぬ訳には行かないのだ。追突事故ぐらいで死ぬのは馬鹿だ」と思いながら、助手席で緊張しながら逃走する車を見ていた。追跡中は恐怖の連続だ。結局追突した男は逃げ切った。プロトン(マレーシア製)がホンダ(日本製)に勝ったわけだ。二人で警察署に行って、事故の調書を作成してもらった。逃走した車のナンバー・プレートの番号が書かれていた。男が24時間以内に出頭しなければ、罰則を受けるという。

- ・ おふくろさんの味

帰る時刻がとつくに過ぎているので、Chaiのお母さんが作ってくれた粽と煮ものを頼張ってChaiの家を辞した。粽は台湾のそれと味はほぼ同じ。煮ものは辛いのを取り去ると、日本のそれと変わらない。Chaiが選ぶものは美味しいというのは、彼が何処で覚えたのかは知らないが、日本の味を知っているからだろう。

6/07 (Sun)

3ヶ月の滞在を終えて、帰国の途に着いた。Malaysian Airlines MH 070

Bureau Veritas, Vantage, Demag (Soon Heng), Hit-tech (U.E..Engineering), ITPortLink の人達にお世話になった。特に Nazrin, Azhar, Shahril, Azmi, Charleston, Choy, Chai, Lim ありがとうございました。Terima Kasih and Syukran

今日は原がKLIAまで見送りに来てくれた。Chaiに「どうしてあんな無茶な追跡をしたのだ」と尋ねてみた。「ここはマレーシアなのだ」と言うのが回答だった。

マレーシア航空の客室乗務員が「ワイン・ビール・ジュース・日本茶」と聞きに来たので、日本茶を頼んだ。「あなたは中国人ですか」と言うので、「日本人です」と答えた。普通はここで会話が終わるのだが、「中国人と日本人のミックス？」と更に聞いてくるので、「日本人だ。100%日本人だ」と答えると、

「エ～信じられない」と言う。何が信じられないのか知らないが、何人(なにじん)でも良いじゃないか。バカタレ!!!



Petronas Twin Towers at KLCC (452m in height)



国境のリゾート Langkawi



侵略の街 Melaka (世界遺産)



馴染みの Restoran 555 「妃常美食」



世話になった屋台のマスター (ミャンマー出身)



Crystal Crown Hotel (Klang) 1224 号室



傘を貸してくれたコーヒ・ショップ The Kopitiam



RTGC #61 at North Port (Malaysia)